

弘教寺



第58号

発行所

〒370-0131  
伊勢崎市境米岡二七九-二  
浄土真宗本願寺派弘教寺  
寺報編集部  
電話 0270(七四)0573



寺のQR

小さく小さく

弘教寺住職 中山英昭

最近仏壇や墓が小さくなってきている。経済的なこともあるが、そのものに向かう思いが変化している結果であるように感じます。

50年前私が僧侶になりたての頃、葬儀は地域が担っていました。当然隣組の皆さんは通夜・葬儀と奉仕でお手伝いしました。

30年以上前になりますが、水戸市、近郊の内原の親戚の葬儀に叔母と伺ったことがあります。葬儀は延々と二時間もかけて勤まりました。お手伝いの方々も男女50人ずつという規模で、そのためか香典以外にお米料が上がり、なげしに金額が揚げられていきました。壮大な葬儀の光景にカルチャーショックを受けたことが懐かしいです。

東南アジアでは親を送り出すその日のためにお金を貯め、亡くなった時には盛大に葬儀をし、弔問客を飲食でもてなす。そのことがいわゆる親を供養する最高の行為であるようです。今もこの習慣は続けられています。

私どもの地域でもかつては地域全体が葬儀を支えていたようです。冠婚葬祭は地域がまとまってゆく大切なものでした。



弘教寺合葬墓

しかし、高度経済成長とともにサラリーマン化が進み、共働き世帯も多くなり、地域コミュニティのつながりが薄くなっていきます。そうした中で葬儀はやがて葬儀社中心の形が主流となりました。さらに、コロナ禍の3〜4年間で、家族葬は定着し、一層小規模な、近い親族にも知らせない葬儀へと変容してきてしまいました。近い親族なのに案内もなかったと不満の声を聞くことも少なくありません。

そのことは家族関係にも波及してきているのか、墓地事情も大きく変わってきております。「お仏壇の長谷川」の調査では個人墓地を保有している方で将来永代供養して片付けたいと希望している方は88.3%あるという結果となり、これから墓地を希望する方の50%は永代墓地で良いと言う結果となったそうです。我が寺でも最近は一一般墓地から永代墓

への移行が多くなりました。先祖代々の墓地はやがて「守らなければ」の思いから「どう片付けていくか」の思いが強くなっていくように思います。小さく小さくの思いが見えております。

核家族化が進み、大家族制が崩壊して、生まれた地に次世代が住むことが少なくなったことで、家も墓も重い負担になった結果であるように思います。今後この傾向がしばらくは続いてゆくのでしょうか。

あるご住職は「子が親を思う時代から、親が子を思う時代」となったと言われました。仏壇を小さくしたいと言う門徒さんがいらつしやいました。都会に住む息子さんに守ってもらいたいからというのが理由でした。立派な仏壇が小さくなってゆくことはしかたないことですが、寂しい思いも抱きます。

親族を葬儀や法事に呼ばないようになったのは、我が子に対する気遣いと同様なものでしょうね。我が子にさえ気遣うのですから、親族はなおさらなのでしょう。祝い事はお金もかかることで仕方ないかも知れませんが、人生を終えていく方を見送る最期の機会に少なくとも近い親族くらいは声をかけてもらいたいと思います。迷惑をかけるという気遣いによりかえって地域や親族とのつながりを断つてゆくことが良いことなのか。無関心、無関係の人間関係が進んでゆくことを危惧しております。

『おかげさま』と言うことばがありますがひとはみな一人では生きてゆけません。多くの人やものに支えられ、助けられ生きております。お世話になった方に最期にその思いを伝える場がなくなることは寂しい限りです。

合掌

# 一龍齋春水講談会 in 弘教寺

十月二十六日、一龍齋春水先生、前座の一龍齋貞介さんによる講談会が弘教寺にて開催されました。告知や案内が直近になってしまったにもかかわらず多くの方に参加いただき、大変良い講談会になりました。

前座に「金子みすゞ甦りの日」と題して、童謡作家の矢崎節夫氏が金子みすゞの詩を全編発見するまでを貞介さんにしていただきました。続いて、金子みすゞの生涯と、その後の娘さんのお話を含めた「金子みすゞ伝」を春水先生にいただき、約二時間の口演は無事終了しました。

今回前座を勤めてくださった貞介さんは今回の高座が実は二回目だということ、大変な緊張の中でお話しくれました。それでも話しぶりは頼もしく、矢崎節夫氏が長い間金子みすゞの詩を探していたこと、その発見に至った時の衝撃をわかりやすく、面白く伝えてくださいました。



一龍齋貞介さん

続いての春水先生は、弘教寺での口演がもう七回目。弘教寺の講談会



一龍齋春水先生

みすゞの名作の朗読を交えながら、迫力と緩急と感情が乗ったお話で、多くの人々が金子みすゞの世界に引き込まれていくのが感じ取れました。

春水先生は、金子みすゞをさらにたくさんの人々に語ってもらおうべく、来年の六月には今指導をされている声優養成所の方に朗読劇をしてもらう計画や、貞介さんの一門における英語の得意な講師さんに金子みすゞの英語講談をしてもらう計画を立てているようです。

これから続く弘教寺講談会でも、新たに金子みすゞのお話を聞く機会がたくさんあることかと思えます。今回参加がかなわなかった方にも、是非

次の機会には生の講談を聞いて、その世界に浸っていただきたいと思えます。中山真悟



といえは春水先生という感じになっています。「大漁」「私と小鳥と鈴と」といった金子

## 一龍齋春水講談会に参加して

春水先生の今回の口演では「こだまでしよるか」「私と小鳥と鈴と」などなじみの詩の他にも沢山の詩を気持ちよく聴かせていただきました。しかし驚いたのは、みすゞさんの後半生でした。娘ふさえさんへの深い思いと苦悩の中で、ふさえさんを母に託して、短い人生を終えた事に衝激をおぼえました。目頭を押さえながら聴いている方もいらっしやいました。みなさん「感動しました」「良いお話が聴けて、今日来られて本当に良かった」と口々にお礼を述べて帰られました。佐々木祐子

春水先生の『金子みすゞ伝』の前座で、一龍齋貞介さんが『金子みすゞ甦りの日』の口演をされました。みすゞさんの、今も私たちのところにとどく、情のあるやさしい詩の大切さを語られました。春水先生は、やさしく心にしみる数々の詩をまじえて、苦悩しつつも強く生きたい金子みすゞさんの人生を語られました。短い26歳の苦悩の人生から、あの情のあるやさしい詩が生まれるのかと思うとき、みすゞさんのこのころの感性とともに、生まれ育った土地の風土・習慣も関わっていることに気づかされ感動させられた講談会でした。

R6能登半島地震義援金54,029円を送金しました。  
(内訳講談会にて11,391円、5月〜10月42,638円)  
\*ご協力有難うございました。

### お寺の臨海学校「阿字ヶ浦」

8月5日から7日までの三日間、茨城県ひたちなか市の阿字ヶ浦クラブで「お寺の臨海学校「阿字ヶ浦」」が開催されました。

「お寺の臨海学校」とは、東京教区北ブロック門徒子弟研修会が毎年行っている子供たち(小三〜中三)のための合宿イベントで、夏休み期間



に群馬、栃木、茨城、千葉、埼玉のお寺の協力のもと開催されています。

今年にはコロナ明け二回目ということもあり、前回よりも多い48人が参加しました。私もスタッフとして班のリーダーを務めました。初日は開校式、スタッフと子供たちの顔合わせがあり、夕食後、最初のイベントのチャレンジランキングが行われました。豆移しや玉入れなどの七つのゲームをして、班での得点を競います。どれも難易度の高いゲームでしたが、子供たちは「あれをやるう」「次はこつちだ」と熱中して遊んでいました。



二日目の午前は、「アクアワールド 茨城県大洗水族館」を見学しました。子供の希望を聞きながらイルカショー、ペンギンたちの餌やり、クラゲやカワウソなどを、二時間半しっかりと見て回りました。特にイルカショーは、男の子たちが前の方で見たいと言って水しぶきを浴びながら楽しんでいました。

午後は、目の前の海岸で海水浴をしました。コロナ禍もあって海が初めての子も多かったのか、みんな大はしゃぎでした。夕食はバーベキューで子供たちはもりもりと食べていました。食後には花火が配られて、みんな楽しんでました。

最終日、最後のイベントは念珠編みでした。全員に腕輪念珠セットが配られて説明を聞きながら編みました。なかなか難しく子供たちのサポートをしながら何とか編み上げました。その後、閉校式、昼食、解散となりました。

後日、書いてもらったアンケートの感想を見てみますと、多くの子供たちが楽しかった、また行きたいと書いてくれており、楽しんでもらえたのだなとほっとしました。

来年は栃木県的那須高原で開催予定です。  
中山大悟



### 弘教寺ゴルフコンペの報告

11月7日大間々ゴルフクラブにおいて第38回弘教寺ゴルフコンペが開催されました。立冬のこの日は冷たい木枯らしが吹きまくり、色づいた木の葉が舞う中を6組23名の参加者が日頃の腕前を競い合いながらも和気あいあいと楽しいひとときを過ごしました。今回は佐藤重吉さんが栄えある優勝杯を手にしました。おめでとうございます。表彰式及びパ



ティーは地元の寿司店「いまふく」で行い、この日の出来栄を振り返るなどゴルフ談義に花を咲かせながら親睦を深めました。栗原政廣

### 群真会ゴルフコンペの報告

県内の浄土真宗のお寺の代表22名が参加し、10月29日群真会ゴルフコンペが甘楽カントリークラブで開催されました。弘教寺からは、9名の選手が出場しました。

雨模様との予報でしたが傘をさすこともなく曇り空の絶好のコンディションでプレイすることができました。そんな中、日頃の練習の成果を遺憾なく発揮し、弘教寺の佐々木康平さんが優勝、徳丸照明さんが準優勝と素晴らしい成績を上げ、意義ある一日となりました。  
橋本豊

京都く群馬ぶらり自転車旅(4)

四日目、浜松市から静岡市へと向かう。この日の天気は一日中雨。今回の旅は荷物を最低限にしてしまったため、雨対策は防水のジャンパーくらいしかなかった。それでも進まないわけにはいかないため、雨に打たれながら出発。百キロもない距離であるにもかかわらず、道が滑る危険性も考えて速度を落としての走行だったためかなり時間がかかってしまった。出発してからすぐにびしょぬれになり、休憩はとる方が進みが遅くなるため、トイレに寄ったコンビニ1回のみ。ルートも海を見ながら進める道であったが、その海は大荒れで恐怖を感じ、途中には自転車を通れない砂利道や工事の道があつて迂回も必要になった。前日からのひざの痛みもあり、とにかく前だけを向いて無心で走るだけの余裕のない道程となった。しかも、ホテルについてタイミンで突然雨が完全にやんだ。外にいる間にやんでくれなかつた雨を恨みたくなつた。



地酒とつまみ

ホテルでゆっくりシャワーを浴びて洗濯などを済ませた後、完全に雨が上がった静岡市を歩いて散策し、夜は元の定食屋と飲み屋で楽しんだ。夜の食事は楽しめたものの、身体的にも精神的にも大きく疲労した一日だった。

中山真悟

例幣使の通行と本陣

境町を通る日光例幣使街道は、徳川家康の霊廟がある日光東照宮に、朝廷から幣帛を奉納する勅使(奉幣使)を遣わすために開かれた街道です。

境町では1643年、幅14mの大通りができ町作りが進むと、2年後には初めて六斎市(毎月2と7の日)が立てられ、近隣からの品々が交換売買されました。後には下げ糸や太織縞も集まり「糸市」と呼ばれました。

そしてまた2年後の1647年には、例幣使の通行が始まり、世良田道、江戸道の交流する例幣使街道を中心として、だんだんと経済交流が盛んになり京都文化の流入も見られるようになっていきます。

境宿には、飯島本陣(伊勢崎藩主の指定本陣)と織間本陣(旧境町指定史跡)がありましたが、柴宿と木崎宿の間宿のため宿泊は無く、街道を往復した公卿門跡や参勤交代の名が本陣に一時間ほど御小休され、立つ時は「おとーりーおとーりー」の聲が繰り返されました。奉幣使の休憩は諏訪町内の諏訪神社でした。約250年に渡って毎年、3月末から4月12日のほぼ毎日、次々とこれらのご通行が続き、明治3年には本陣が廃されました。



織間本陣跡

坊守

編集後記

今年の夏も猛暑で一日中エアコンが欠かせなかつた。また、十月下旬というのに半袖で過ごし、ソメイヨシノが咲いたり、ツククボウシが鳴いたり異常な気候が続いている。今や一年365日のうち、140日以上が夏日の時代となつてしまつたようだ。紅葉シリーズの到来も遅く「秋」と呼べる季節は、一ヶ月足らずとなつてしまつた。夏の始まりが早まり、日本は「四季の国」から夏と冬だけの「二季の国」となつてしまふのではと懸念される。

橋本豊

◆ 行事予定 ◆ 令和6年12月 ~ 令和7年3月

月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
12月	1日(日)	報恩講法要		
	14日(土)	餅つき会		
	15日(日)	壮年会例会	22日(日)	群馬組聖人御誕生850年
	18日(水)	婦人会例会	(於覚法寺)	立教開宗800年慶讃法要
1月	1日(水)	元旦会		
			9日~16日(木)	本山御正忌報恩講法要
	20日(月)	婦人会新年会		
2月	26日(日)	役員新年会		
			未定	教区結成記念日研修会
	16日(日)	壮年会例会		
	26日(水)	婦人会手芸教室		
3月			5日(水)	教区仏婦1日研修会
	未定	弘教寺ゴルフコンパ		
	31日(月)	婦人会例会		